

スキル整理について

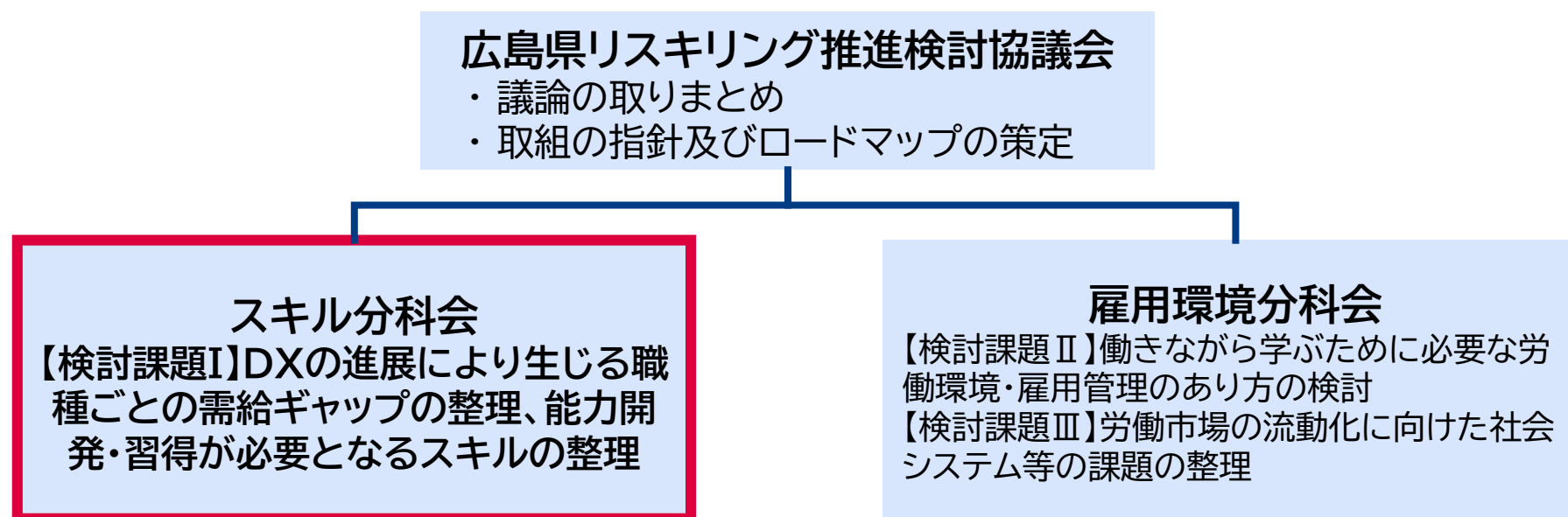
第2回スキル分科会報告資料

2023年1月20日

概要

スキル分科会の設置

- 広島県リスキリング推進検討協議会が、第1回(令和4年4月25日)、第2回(同8月24日)に開催された。
- 第1回協議会において、協議会設置要綱の承認、分科会設置の承認、協議会及び分科会の公開方針の承認について、議決された。また、事務局より、検討の方向性とスケジュールについて説明した。
- 承認された分科会の設置に関し、協議会の下に2つの分科会を設置し、専門的な議論を行い、取りまとめ、リスキリングの取組指針及びロードマップを策定することが確認された。



検討課題 I の検討手順

手順概要

実施事項

①スキルの分類と整理

分科会のアウトプット、スキルの分類と整理

- ✓ リスキリング(スキル)の定義
- ✓ 基本的な考え方と本検討会のスコープ

- 論点整理
- 仮説の提示

②検討対象の特定

検討対象の特定

- ✓ 整理の観点(DX推進、需給の過剰/不足等)
- ✓ 典型的な事例として取り上げるべき産業・職種

- 労働需給推計(広島県)
- リスキリング対象や方法整理仮説の検討
- 必要なヒアリング対象等のご意見収集

第1回(7月):ここまで

③調査の実施

DX等のリスキリングパターンと必要とされるスキルの整理

- ✓ 第1回分科会等におけるご意見をもとにスキル整理(案)の提示

- 労働需給推計(継続)
- ヒアリング調査(企業/有識者)
- 文献調査
- アンケート調査(企業/労働者調査)

④スキルの取りまとめ

スキル整理(案)のブラッシュアップ

- ✓ 整理したスキル整理(案)へご意見収集

- 検討会・ヒアリングの実施

第2回(12月):ここまで

⑤スキル整理修正

分科会ご意見を受け、スキル整理(案)の修正

- ✓ スキル整理(案)の修正
- ✓ 事例の追加収集および、ヒアリングの実施
- ✓ 広島県内企業のリスキリング推進ガイドライン(仮称)(第4章)への記載

- 整理の再修正
- 事例追加収集(文献調査)
- ヒアリング調査(企業等)

第3回(年度開け):ここまで

検討課題 I の論点

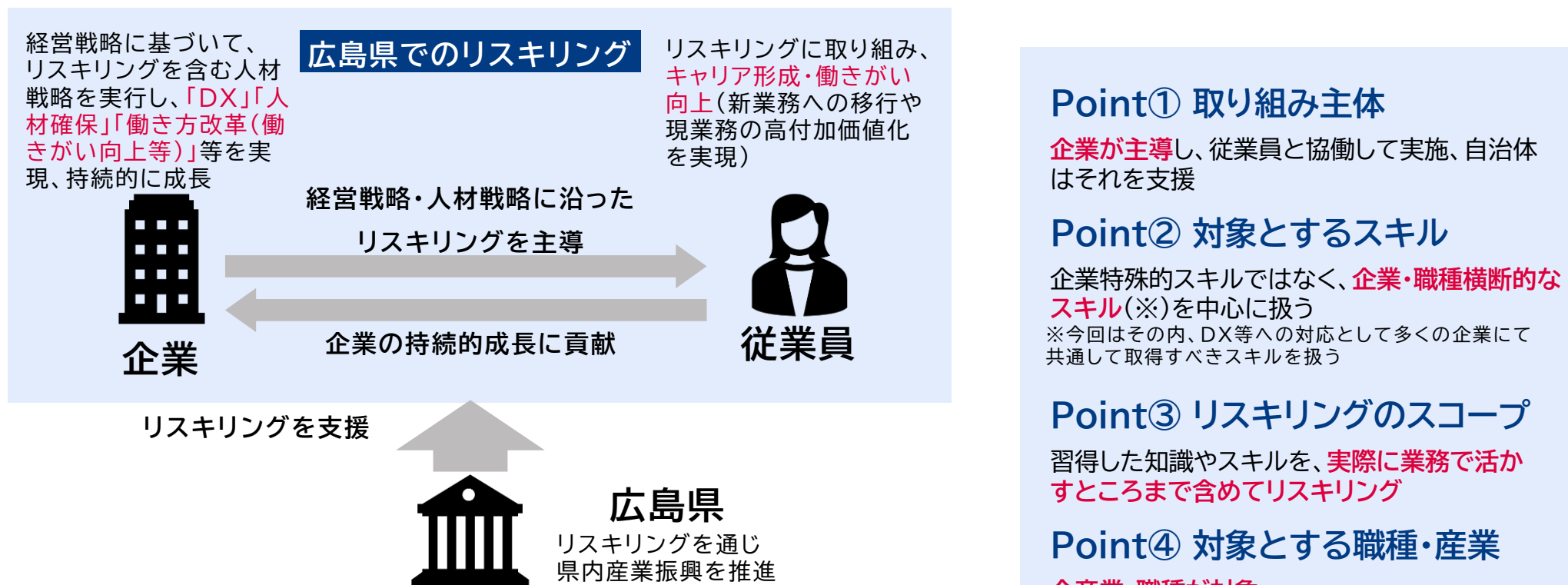
- 各回の主な論点は以下の通り。

分科会	論点
第1回 (7月)	<p>① スキル分類と整理</p> <ul style="list-style-type: none">➢ ポータブルスキル／典型的なリスキリング例 <p>②-1 スキルの整理にあたり、類型において着目すべき観点</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 観点 DX推進のボトルネック、DX等に伴う需給変化による雇用需給 <p>②-2 ヒアリングにて確認すべき事項や、詳細を伺うべき産業・職種等の対象</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 具体的に状況を深掘りすべき産業・職種等
第2回 (12月)	<p>① スキル整理案</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 経営管理部門、製造業、非製造業のスキル整理(案) <p>② スキル習得の方法</p> <ul style="list-style-type: none">➢ スキル整理(案)を実際に習得する方法
第3回 (年度明け)	<p>① スキル整理案再検討</p> <p>② 全体取りまとめ</p>

スキルの分類と整理 | リスキリングの定義

< 広島県でのリスキリングの定義(※) >

- 「外部環境の変化(DX等)による新たな業務需要の拡大と減少に対応して、企業等の経営戦略や人材戦略のもと、企業の主導によって、従業員が今後の新たな業務などで必要となる知識やスキルを習得し、活用(業務を創造・高度化)すること」(仮)とする。



Point① 取り組み主体

企業が主導し、従業員と協働して実施、自治体はそれを支援

Point② 対象とするスキル

企業特長的スキルではなく、**企業・職種横断的なスキル(※)**を中心に扱う

※今回はその内、DX等への対応として多くの企業にて共通して取得すべきスキルを扱う

Point③ リスキリングのスコープ

習得した知識やスキルを、**実際に業務で活かすところまで含めてリスキリング**

Point④ 対象とする職種・産業

全産業・職種が対象

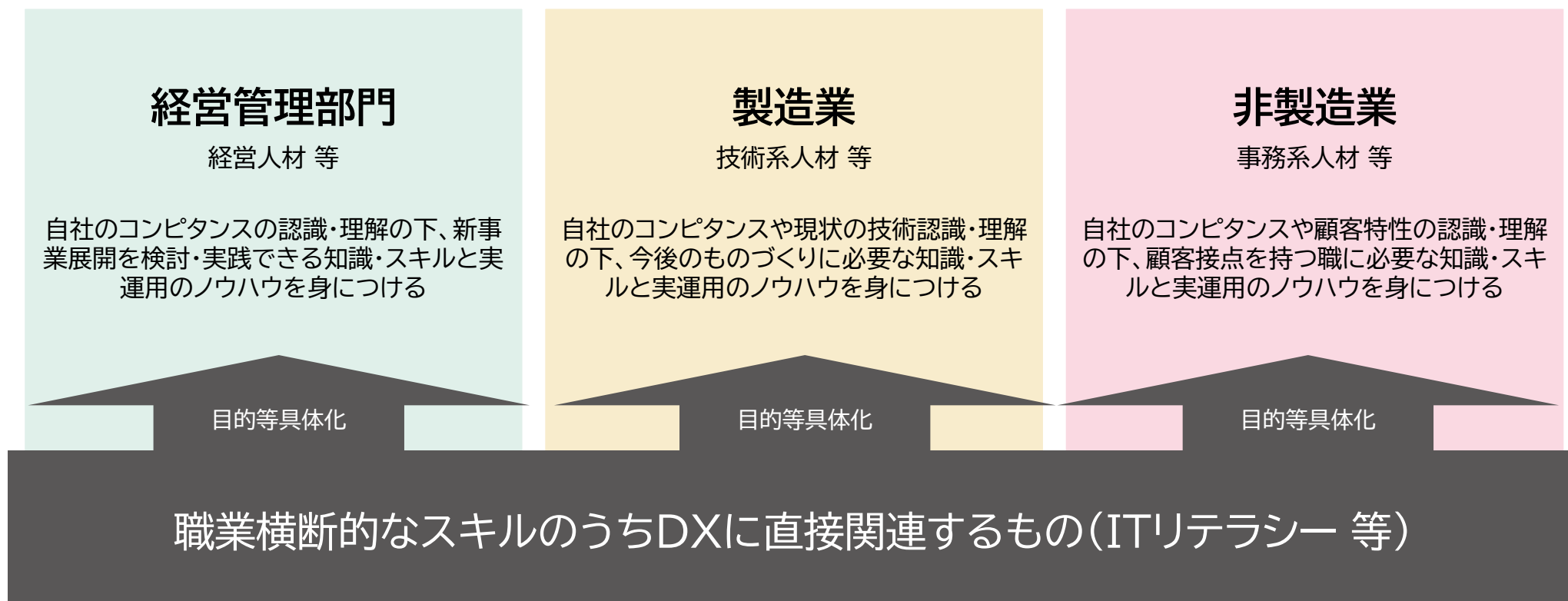
図：広島県版リスキリングのポイントと各主体の関係性

※今後も引き続き整理を進める。

スキルの分類と整理 | 基本的な考え方と分科会のスコープ

- 個別の企業におけるスキルではなく、リスキリングに取り組む企業が共通点を見いだせるスキルについて、その活用目的と場面も含めて検討。

注 | リスキリングの主体(企業/行政等)や方策・施策は本分科会の主たるスコープではないため、必要の範囲内での検討予定。

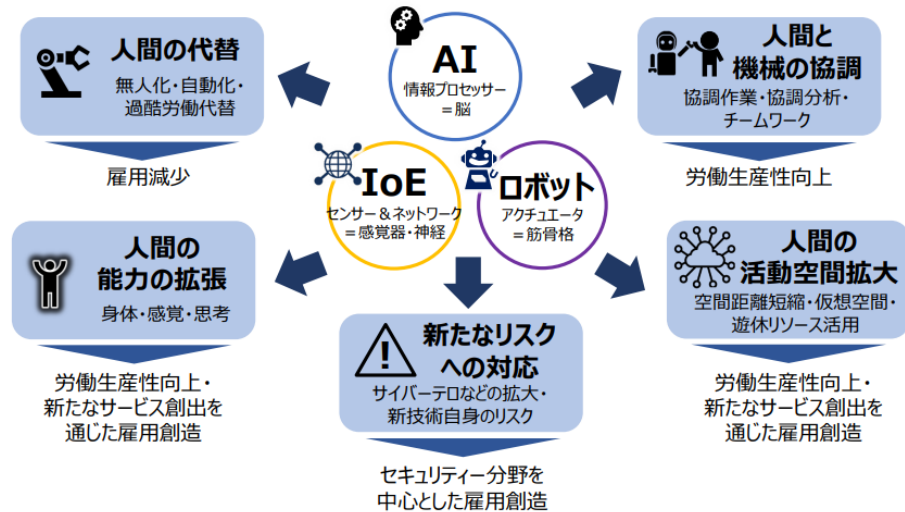


DX進展・労働需給ギャップに対応したリスキリングが必要

- 産業構造の変化及びDX進展により、労働需給が変化。当該の変化に対応したリスキリングが必要となる。

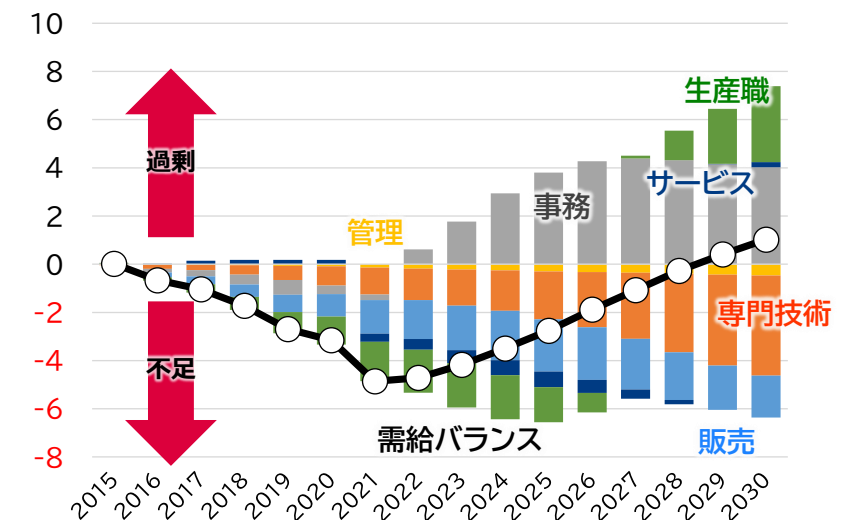
DX進展

AI・ロボット・IoTの社会影響を考える5つの視点



労働需給変化

(万人) 職業区分別労働需給ギャップ(2015年対比)

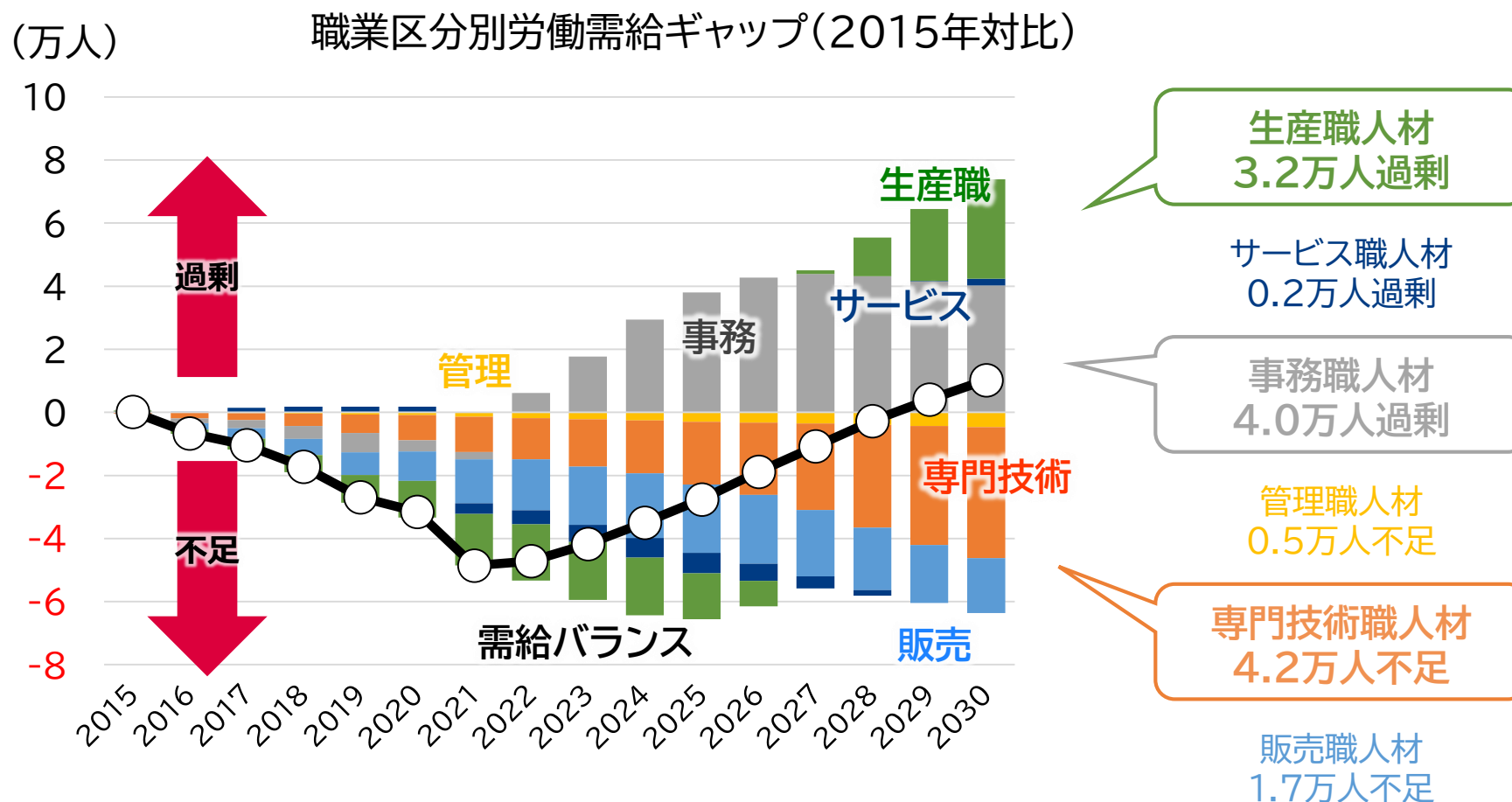


産業構造転換に対応しDXが推進

産業構造転換に伴い、各職に含まれるタスク需給が変化

2030年に向けた労働需給ギャップ推計結果

- DXの進展により現在生産職や事務職の担うタスクの余剰、専門技術職の担うタスクの不足を予期



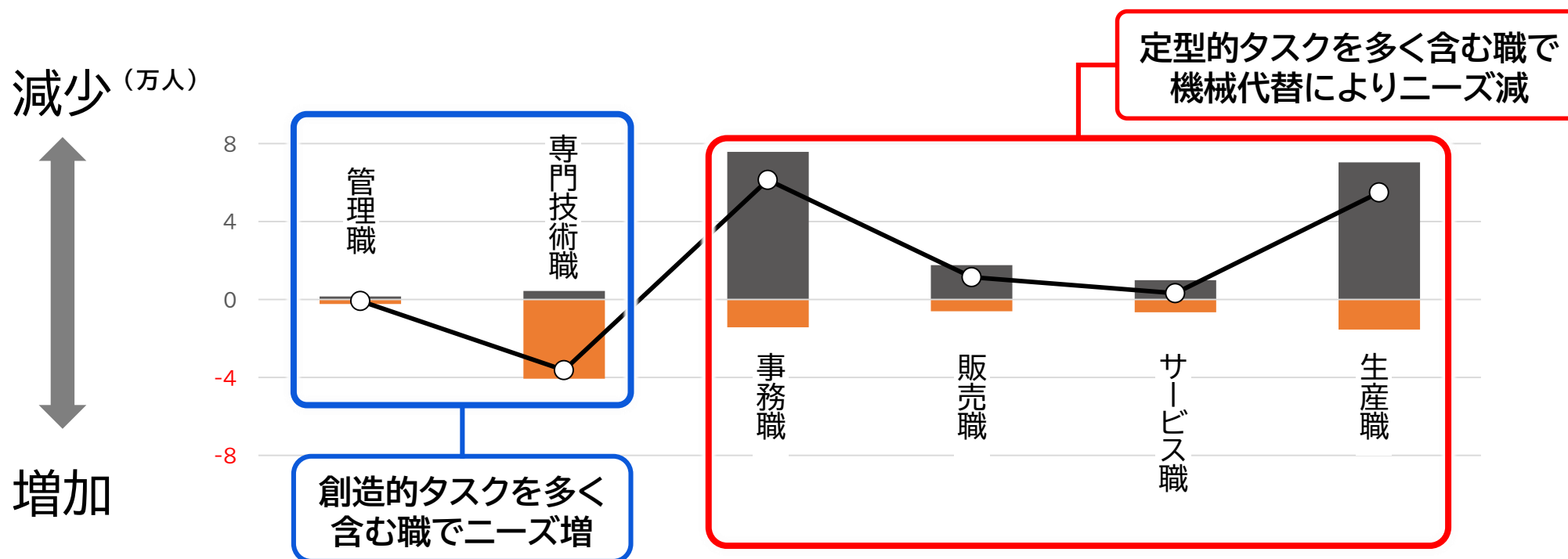
出所)三菱総合研究所 2022年12月推計

※ 需要の推計は第四次産業革命に係る技術普及シナリオに基づく試算値に加えベースラインでの変化も加味。

DX進展に伴い、創造的なタスクを実施できることが求められる

- 特にスキル特定的前提として労働需要の変化を捉える必要がある。
 - 創造的タスクのニーズ増加、定型的タスクのニーズ減少の見込み。2030年に向け、専門技術職の増加とともに、事務・販売サービス・生産・輸送・建設職でも創造的タスク実施のためのリスキリングが不可欠となる。

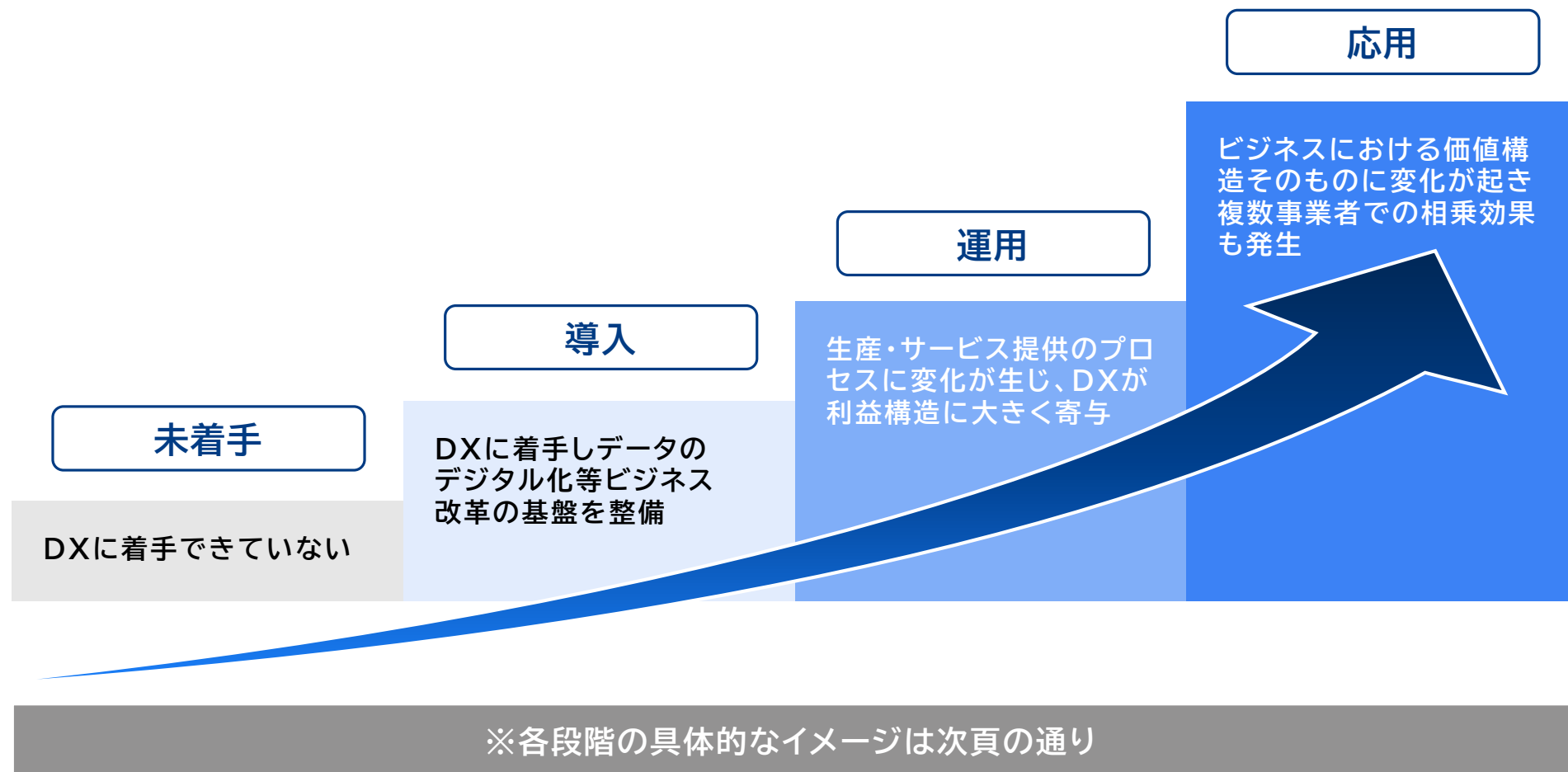
2030年 DX実現シナリオの広島県の人材需要：MRI試算



注) DXの雇用影響は、第四次産業革命に係る技術普及シナリオに基づく試算値。
出所) 三菱総合研究所

DXの進展段階に応じた対応の必要性

- DXの進展の段階として、未着手、導入、運用、応用の段階があり、それぞれの段階に合わせたリスクリングが必要である。



経営管理部門のスキル整理(調整中)

デジタル成熟度 分類・定義		未着手 DXに着手できていない	導入 DXに着手しデータのデジタル化等 ビジネス改革の基盤を整備	運用 生産・サービス提供のプロセスに変化が生じ、DXが利益構造に大きく寄与	応用 ビジネスにおける価値構造そのものに変化が起き複数事業者での相乗効果も発生
組織機能・部門	人材	アナログ、紙でのやり取り	アナログからデジタルへの移行	デジタルデータを利用した ビジネスプロセスの変革	デジタルネットワークを活用した 顧客価値・体験の新規創造
戦略	経営・取締役会 経営企画	経営人材	<h3>詳細調整中</h3>		
管理	経理・財務	事務系			
	人事	事務系			
	法務・総務	事務系			
	広報・IR	事務系			
	リスクマネジメント・ セキュリティ	事務系/技術系			
	情報システム	技術系			

注:各セルでは、「知識・スキル習得の目的→手段」を掲載している、丸付き数字は参考資料における事例の番号を表している。

製造業のスキル整理(調整中)

デジタル成熟度 分類・定義		未着手	導入	運用	応用
		DXに着手できていない	DXに着手しデータのデジタル化等 ビジネス改革の基盤を整備	生産・サービス提供のプロセスに変化が 生じ、DXが利益構造に大きく寄与	ビジネスにおける価値構造そのものに変化 が起き複数事業者での相乗効果も発生
組織機能・部門	人材	アナログ、紙でのやり取り	アナログからデジタルへの移行	デジタルデータを利用した ビジネスプロセスの変革	デジタルネットワークを活用した 顧客価値・体験の新規創造
開発・研 事業	研究・開発	技術系	<h3>詳細調整中</h3>		
	製品企画	事務系/技術系			
	購買・調達 生産管理	事務系/技術系			
	生産・製造	技術系			
	品質管理	事務系/技術系			
	物流・配送	事務系			
	営業・サービス	事務系/技術系			
	製造に関連する その他部門 (建設、インフラ管理)	技術系			

注:各セルでは、「知識・スキル習得の目的➡手段」を掲載している、丸付き数字は参考資料における事例の番号を表している。

非製造業のスキル整理(調整中)

デジタル成熟度 分類・定義		未着手 DXに着手できていない	導入 DXに着手しデータのデジタル化等 ビジネス改革の基盤を整備	運用 生産・サービス提供のプロセスに変化が生じ、DXが利益構造に大きく寄与	応用 ビジネスにおける価値構造そのものに変化が起き複数事業者での相乗効果も発生
組織機能・部門	人材	アナログ、紙でのやり取り	アナログからデジタルへの移行	デジタルデータを利用した ビジネスプロセスの変革	デジタルネットワークを活用した 顧客価値・体験の新規創造
事業	営業事務 (購買・調達・経理) 事務系/販売系	<div style="font-size: 2em; color: #0056b3; font-weight: bold;">詳細調整中</div>			
	企画営業・販売 事務系/販売系				
	サービス企画・提供 事務系・販売・サービス系				

注:各セルでは、「知識・スキル習得の目的→手段」を掲載している、丸付き数字は参考資料における事例の番号を表している。

第2回スキル分科会における主なご意見(1/2)

● 主にガイドラインに関連するスキル整理について

カテゴリ	内容
スキルのスコープ	<ul style="list-style-type: none">今回整理するスキルのスコープについて、企業特殊ではないスキル、DXに関連するスキルを整理するという趣旨にて改めて合意。
スキル整理の方針	<ul style="list-style-type: none">部門・業界とDX進展段階の表にてスキルを整理していくという方針について合意。企業目線でもイメージしやすいとの意見も見られた。
スキル整理の内容	<ul style="list-style-type: none">現状の整理は各企業でのDX進展段階を中心に記載されている。企業にとってイメージが湧き有用であるが、求める人材像やスキルの整理も更に整理が必要。
スキル整理のフレーム	<ul style="list-style-type: none">スキル整理の方針については合意の上で、各セルに記載するスキル整理方法について、今回のスコープを明示することや、今後の見直しも見込むと、既存のスキル体系を一定程度参照する必要があるのではないか。(厚生労働省のJobtag、データサイエンティスト協会のスキル定義 等)
スキル整理のシナリオ	<ul style="list-style-type: none">右に向かいDXが各部門・業界で進むに連れ、どのような方向性で進むのかというシナリオが伝わる必要がある。そうでなければ、企業はDXを進めない。応用段階はその意味でシナリオの役割を果たしているため、海外事例を含めイメージを示せると望ましい。
スキル整理の方法	<ul style="list-style-type: none">人物像の整理は必ずしも部門×業界の粒度感が有用ではないという意見もあり。「〇〇できる」といったスキル定義の方法も考えられる。(その他様々なご意見あり)

第2回スキル分科会における主なご意見(2/2)

● その他のご意見

カテゴリ	内容
活用の方法	<ul style="list-style-type: none">今回整理したスキル整理をどのように活用するのか、整理後お蔵入りしないよう活用の場面等についても検討しておく必要がある。
学習へのつなぎ	<ul style="list-style-type: none">スキル整理を学習に繋げるため、教育プロバイダーをサンプルとして示す等、企業が何をすればよいのか分かる形で示すことができると望ましい。海外では、キャリアパス/スキル整理/学習コンテンツ提案がパッケージ化されたサイト等も提供されており(ZILLEARN)、実施主体が誰になるかはわからないが、長期的にはそうした方向へ向かうことも考えられる。国や自治体レベルで学びをサポートする取り組みもいづらか見られる。ITやデジタル体制が弱い場合、伴走等外部からの支援も必要となる。 (イギリスのアプレンティスシップ制度や、奈良県の雇用予定型リカレント教育事業等、Google @ Work20%等)
相談の場	<ul style="list-style-type: none">スキル整理したものを学ぶのみでは実践は難しい。リスキリング全体に関して、駆け込み寺のように相談できる機関や、企業同士で情報交換・相談できる場があると、実践的なリスキリングを推進の一助となりうる。

今後の方針

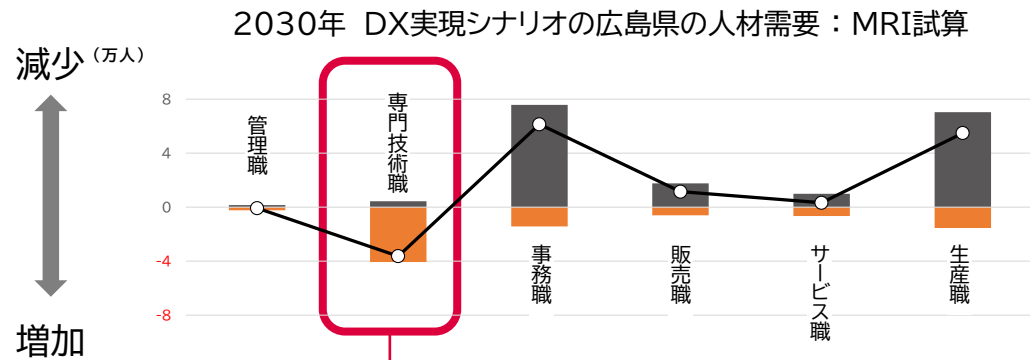
- 分科会での議論を受け、スキル整理案の再検討。
- 企業におけるリスクリングの目的とあるべき状況についての整理
 - 現状の、企業におけるリスクリングの目的とあるべき状況についての整理については、委員からも方向性についての合意がなされた。
 - 応用段階の具体的な事例等に、海外事例も含めつつ、適宜事例も参照してブラッシュアップを実施する。
- 求める人材像やスキルの整理
 - 企業の置かれた状況に加え、人側の状況(人材像やスキル)のさらなる追記・整理の必要性が議論された。
 - 最終報告に向け、各委員と意見交換を進め、実際に活用可能な粒度感でのスキル整理を実施する。
- リスクリングガイドライン(第4章)におけるスキル整理の記載。
 - 雇用環境分科会にて検討中のリスクリングガイドライン、第4章へスキル整理について本分科会の内容を整理の上記載予定。
 - 具体的には、DXの進展段階、各段階における企業に求められる状況、その際に必要となるスキルの整理の記載を想定している。

詳細資料

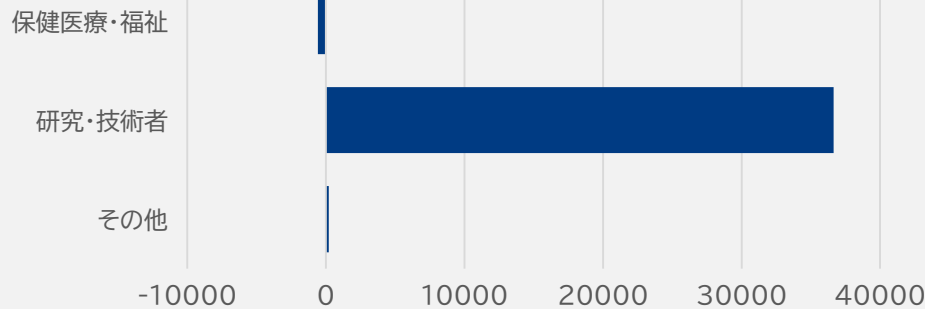
専門職の需要推計(内訳)【参考】

- 需要の大半は研究・技術者系が占めている

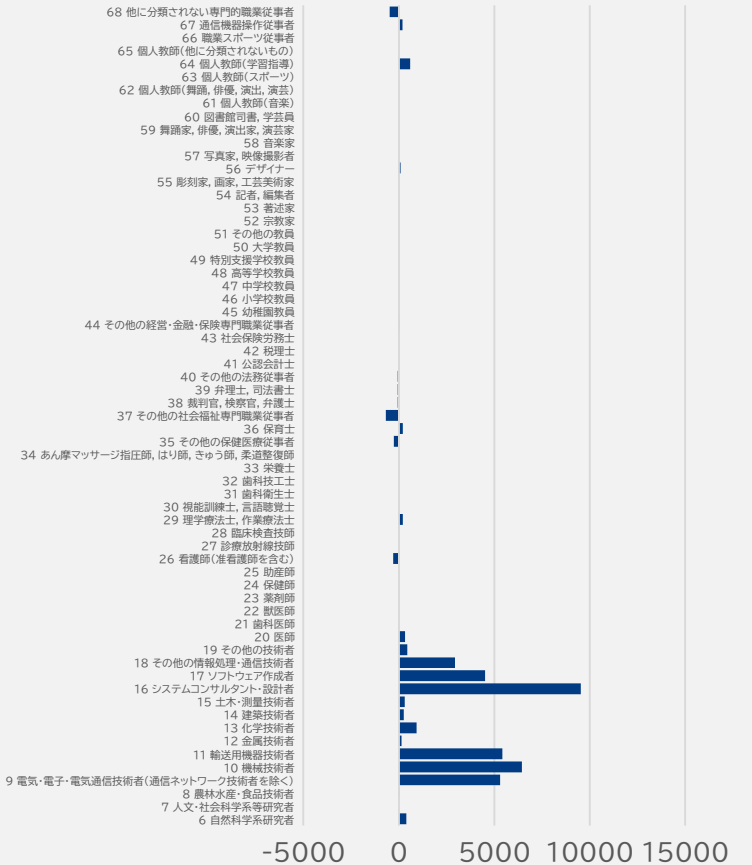
- 具体的にはIT系(システムコンサルタントやITソフトウェア作成者等)、輸送用機器、機械、電気系等



分類別の需要



専門職、国勢調査細分類別の影響



※ DXの雇用影響は、第四次産業革命に係る技術普及シナリオに基づく試算値。

事例 | 経営管理部門

No.	段階	部門	企業名	業種規模	背景・実施内容	効用	スキル
①	運用	経理・財務	ブリヂストンファイナンス株式会社	サービス業	ブリヂストングループ全体のシェアードサービスとして、業務の集約化による効率化をめざすが、人的資源の不足が課題。そこでAI-OCRとRPAを導入、人手を使って行っていた伝票起票業務を自動化	<ul style="list-style-type: none"> ・人的資源不足の解消 ・業務繁忙の平準化 ・本来業務へシフト 	伝票起票システムを利用する知識・スキル
②	運用	人事	株式会社デンソー	製造業 (連結16.8万人、単独4.5万名)	昇格業務時、人材情報を収集するためのルーティン業務に多くの時間を要していたため、人材データベースのシステムを導入。システム上でまとめて管理することで人事業務を効率化。検索機能により社員の多角的な分析が可能になり、印象等に依らないタレントマネジメントが行える	<ul style="list-style-type: none"> ・業務効率化(昇格業務時の人材情報の収集効率化) ・収集した情報に基づく客観的な人事評価 ・創造的業務へシフト 	タレントマネジメントシステムを利用する知識・スキル
③	運用	人事	日立物流ソフトウェア株式会社	情報通信業 (連結694名)	複数の求人媒体を活用して採用活動を行っており、候補者情報の管理や比較が非効率であったため採用管理システムを導入。候補者情報の共有などを迅速化。選考時に現場の関与も可能になった	<ul style="list-style-type: none"> ・採用時の候補者情報の管理効率化 	採用管理システムを利用する知識・スキル
④	運用	法務・総務	鹿島建設株式会社	建設業 (8,080名)	近年、異業種や海外企業との提携(オープンイノベーション)が増加。これに伴い契約関連業務の負荷も大きくなった。そこで知財法務部門では契約書専用ツールを導入。自動レビュー機能により、大幅な業務効率化に成功	<ul style="list-style-type: none"> ・契約関連業務の負荷軽減 ・契約業務のスピード 	契約書専用ツールを利用する知識・スキル、AIを活用する知識・スキル
⑤	運用	広報・IR	学校法人近畿大学	教育 (5,257名)	属人的だった接点情報を一元化し、プレスリリースや広報活動の業務効率を高める目的で、名刺情報を管理するデータベースを構築	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人脈を大学の資産として管理 ・組織内外のコミュニケーションの変化により本質的業務へシフト ・働き方の変化 	顧客情報管理データベースツールを利用する知識・スキル

出所) BtoBプラットフォーム請求書HP(【事例付き】経理部門にこそ求められるデジタルトランスフォーメーション(DX) | BtoBプラットフォーム 請求書 (infomart.co.jp) カオナビHP(株式会社デンソー | 導入事例 | カオナビ【シェアNo.1】社員の個性・才能を発掘し、戦略人事を加速させるタレントマネジメントシステム (kaonavi.jp)) 予約ラボHP(【人事のDX事例5選】予約システムや採用管理システム導入など、企業の取り組みを紹介 | 予約ラボ (yoyakulab.net)) みらいワークスHP(バックオフィスDXとは? 効果性の高い進め方やポイント、成功事例も解説 - フリーコンサルタント.jp for Business | TOP (mirai-works.co.jp) SansanHP(組織内の名刺が全て可視化されたことで、働き方が根本から変わる (学校法人近畿大学) - 導入事例 - Sansan - 営業DXサービス) (2022年11月21日閲覧))

事例 | 製造業

No.	段階	部門	企業名	業種規模	背景・実施内容	効用	スキル
①	導入	生産・製造 購買・調達 生産管理	五洋食品工業	冷凍洋菓子 メーカー 95名	管理帳票の電子化、計量データの自動入力により、製造工程でのデータの取得などによる工場の「見える化」を進め、リアルタイムでの稼働状況の把握や収益管理が可能になっただけでなく、従業員の作業ぶりについても数値化	<ul style="list-style-type: none"> 生産管理体制の適時把握による、受発注等業務の効率化 社員の業務意欲向上 	電子帳票や自動計量システムを利用する知識・スキル
②	運用	生産・製造 品質管理	HILLTOP	機械加工事業・装置開発事業 135名	下請け・孫請け業務が当初は多く、創造的・生産的な業務が少なかったことに課題。そこで独自のプログラミング教育ツールを開発して社員をリスキリングし、プログラムを組んで独自の生産管理システムを稼働	<ul style="list-style-type: none"> ルーティーン化した切削加工の作業を自動化、生産性向上 誰もが安定した品質の製品を製造可能に 社員の業務意欲向上 	プログラミングスキル
③	運用	生産・製造	久野金属工業	自動車・産業用部品の設計・開発 352名	1980年代からIT化による業務効率化を志向。受注や製造、在庫管理などを自動化する基盤システムの整備を進め、2018年には製造ラインの稼働状況をモニタリングするクラウドサービスを開発	<ul style="list-style-type: none"> 生産能力の大幅な向上 社員がDXの可能性を認識し、様々な改善提案を発出 	システムの仕様設計・要件定義スキル
④	運用	購買・調達 品質管理	横河電機	エネルギー、マテリアル、測定器事業 17,258人	グローバルで展開しているデータをクラウド環境に集約し、部品調達情報を一元化。また、クラウドに集められたデータを生かすためのAIの開発にも着手し、AIを中心としたテクノロジードリブンのデータ活用を志向	<ul style="list-style-type: none"> 自律制御や異常予測、製品品質予測による、調達や品質管理等の効率化 	機械学習スキル
⑤	応用	製造に関連するその他部門 (建設・インフラ管理)	テラドローン	ドローン事業 300名	従来は台風等自然災害の被害を受けた住民自らが調査・見積もり提出をしており、時間/能力/精神面で負担大。被害状況をドローンで目視確認し、それを踏まえた工事手配・保険金請求手続を代行する新たなビジネスを創出	<ul style="list-style-type: none"> 現地での建設ものづくりに限らない、手続代行サービスという新事業の開発 	業界横断的なデータ連携スキル

出所) [ビジネス・レーパー・トレンド2021年11月号 事例取材 スマート工場化で製造作業の「見える化」に取り組む | 労働政策研究・研修機構\(JILPT\)](#)、[HILLTOP株式会社:「人を育てる」使命を追求したら、DXにたどり着いた。稼ぐ仕事は機械に任せ、10年先のビジネスを探す | 研究プロジェクト | リクルートワークス研究所 \(works-i.com\)](#)、[久野金属工業株式会社:「自分の仕事を自動化できる」可能性が、社員の提案力を高める | 研究プロジェクト | リクルートワークス研究所 \(works-i.com\)](#)、[日経ビジネス電子版『35日間無人操業に成功 横河電機、AIで切り開く製造業の世界』\(6月7日\)](#)、(2023年1月17日閲覧)、[『日経アーキテクチャ』\(2021/1/14\)](#)

事例 | 非製造業(1/2)

No.	段階	部門	企業名	業種規模	背景・実施内容	効用	スキル
①	導入	設備・商品管理	北國銀行	金融(銀行)	勘定系システムをAzure上のBankVisionへ移行、銀行機能の連携が可能	・従来事業に加えての収益機会を確保	データ活用 (出力結果の理由を理解・説明)
②	導入	企画営業・販売	ふくおかフィナンシャルグループ	金融(銀行)	グーグルクラウドとの連携、デジタルバンク「みんなの銀行」を開始	・デジタルネイティブ世代や、異なる地域の顧客をターゲットとして取り込み	データ活用 (出力結果の理由を理解・説明)
③	導入	企画営業・販売	阪急阪神百貨店	小売	売り場を回るようなWEBカタログとLINEやZoomを活用した接客 従業員にスマホを配布し、デジタルスタッフガイドでノウハウを共有(従来は800通りののし紙の使い分け、金券のお釣りの有無等を専門スタッフへ問い合わせしていた)	・顧客層の拡大や密なコミュニケーションによる満足度上昇 ・業務効率化	基本的なツール (コミュニケーションツールや社内ポータル)の活用
④	導入	サービス企画・提供	医療法人社団明和会 大野浦病院	医療	介護ロボットを導入し、ロボットのデータを活用	・調査中	調査中
⑤	運用	営業事務(購買・調達・物流・契約・経理)	東急ストア	小売	シノプスと協業し、自社を実験場とする形で店舗のDX化を進め、加工食品、日用品の需要予測と自動発注を導入。惣菜の値引き率管理もAIで管理	・発注時間が半分に、食品ロスが1.5%減少。 ・在庫をリアルタイムで把握し探し回る手間を省く	需要予測の解釈や自動発注システムを利用する知識・スキル
⑥	運用	企画営業・販売	三井住友海上火災保険	金融(保険)	AI(MSI Brain)を活用し潜在顧客を割り出した上で、どのような商品を提案すればよいか具体的な手順まで提示	・成約率が3倍に向上	結果の活用 (AIサジェストの意味を理解し活用)

出所)「The 銀行員」のデジタル人材化×分析基盤の構築 北國銀行がクラウドで挑むデータ活用の全貌とは - ITmedia NEWS、みんなの銀行の基幹システムを開発するゼロバンク・デザインファクトリー、フルクラウド型銀行システムの外部提供を開始 | 株式会社ふくおかフィナンシャルグループのプレスリリース (prtmes.jp)、リアルタイム在庫を活用した、東急ストア「攻め」のDX 小売・物流業界 ニュースサイト【ダイヤモンド・チェーンストアオンライン】(diamond-rm.net)、「働きがい」定量評価 ICT化実証実験 廿日市市で 医療法人社団明和会 | 高齢者住宅新聞オンライン (koureisha-jutaku.com)(2023年1月17日閲覧)、『週刊ダイヤモンド 銀行・保険・証券DX大戦』(第110巻28号)、『激流』(2021年5月号)

事例 | 非製造業(2/2)

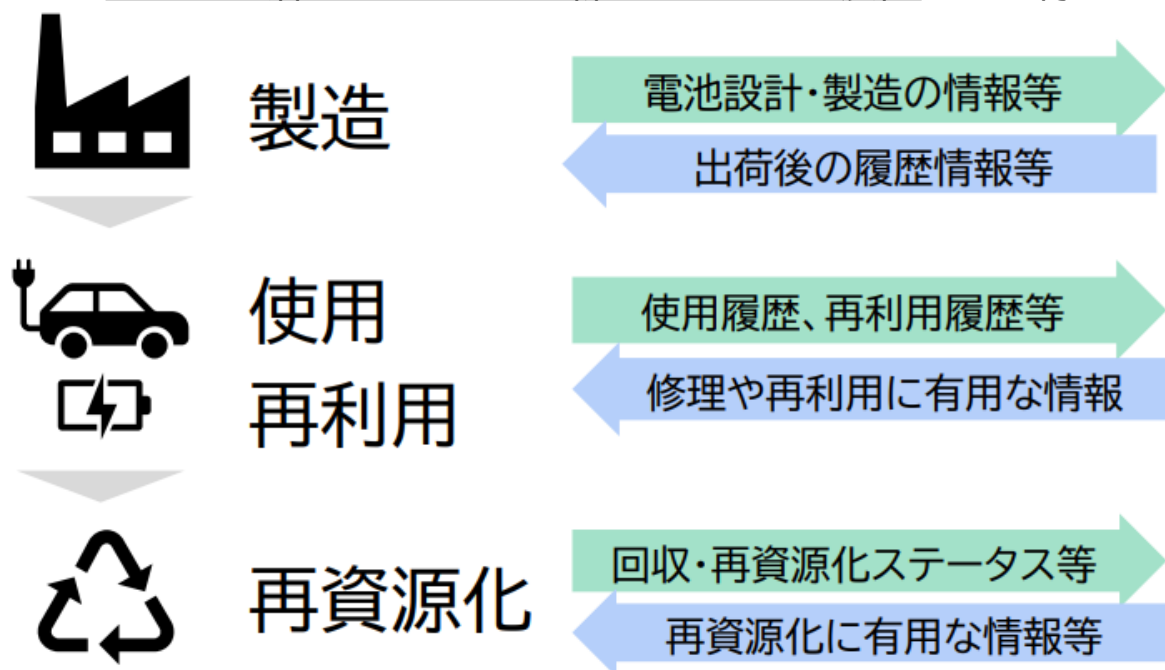
No.	段階	部門	企業名	業種規模	背景・実施内容	効用	スキル
7	応用	サービス企画・提供	損保ジャパン	金融(保険)	基幹システムをオープン系技術中心のSOMPO-MIRAIへ移行	<ul style="list-style-type: none"> 今後のMaasや自動運転に対応したスタートアップ等外部企業・サービスと連携した商品組成が可能 	システムの仕様設計・要件定義スキル
8	運用	サービス企画・提供	陣屋	観光(宿泊)	顧客管理のクラウド化、予約システム・勤怠・業務連絡原価管理システム、自動車ナンバープレート感知等のIoTの導入	<ul style="list-style-type: none"> バックヤード業務の効率化 提供価値の向上(顧客の待機ロス削減や宿泊履歴から好みに合わせた料理の提供) 	適切にソフトウェアを活用し、蓄積したデータを活用するスキル
9	応用	サービス企画・提供	飛騨信用組合	金融(銀行)	地域通貨「さるぼぼコイン」を活用し、当該コインを用いなければ購入できないプラットフォーム「さるぼぼコインタウン」を運営	<ul style="list-style-type: none"> 地域消費量の増加とともにコミュニケーションの活性化と町おこしを兼ねる 	業界横断的なデータ連携スキル(メリットや連携可能性の理解)

出所) 株式会社陣屋: 倒産寸前の老舗旅館 データを使いこなす接客人材を育てた経営者と女将の取り組みとは | 研究プロジェクト | リクルートワークス研究所 (works-i.com)、中小企業が小規模な変革から始めたDXの成功事例 老舗旅館「陣屋」 - 部品でWEBシステム開発に特化、柔軟・高品質・短納期のサイバークラウド株式会社 (cyberwave.jp)、さるぼぼコインタウン | 飛騨・高山の裏メニュー (hidashin.co.jp) (2023年1月17日閲覧)、『週刊ダイヤモンド 銀行・保険・証券DX大戦』(第110巻28号)

循環型・持続可能な経営(GX等)への対応の例 | デジタルプロダクトパスポート

● DX対応による循環型・持続可能な経営(GX等)への対応の例

- 製品のライフサイクル上の各種情報をサプライチェーンの関係者等でデジタルデータとして共有する仕組みを、デジタルプロダクトパスポート(DPP)と呼ぶ。EUでは、まず電池で法制度化を検討中。
- 製品に関する情報(部材組成/部品調達先/有害物質など)に関してデータ化し、関係者間とデータ連携することで、既存事業の生産性向上にとどまらず、類似製品の開発/適時での調達先選定/他製品の適切な品質管理などに活かすといった、新たなビジネス展開もあり得る。



🌐 バッテリーパスポート (識別ID:xxx) - 主な想定内容(EU電池規制案より) -

- モデルに共通する情報
 - ✓ 有害物質の含有情報
 - ✓ カーボンフットプリント(CO2排出量の履歴)
 - ✓ 原料調達のデューデリジェンス情報
 - ✓ 期待寿命
 - ✓ 部材の組成 (※限定公開)
 - ✓ 交換部品調達先 (※限定公開)
 - ✓ 解体関連情報 (※限定公開)
- 個々の電池固有の情報
 - ✓ 充放電や故障の履歴など